

事業名(箇所名)	殿ダム建設事業		担当課	河川局治水課		事業主体	中国地方整備局		
実施箇所	鳥取県鳥取市国府町殿地先								
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業								
事業諸元	ロックフィルダム 堤高：75m 総貯水容量：12,400千m ³								
事業期間	昭和60年度から平成23年度まで予定								
総事業費(億円)	約950	残事業費(億円)	約271 (平成22年度予算を含む 公共費：約258億)						
目的・必要性	<p>〈解決すべき課題・背景〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年では、昭和51年9月、昭和54年10月、平成2年9月、平成10年10月、平成16年9月に被害の大きな洪水が発生している。 洪水実績： <ul style="list-style-type: none"> 昭和51年9月洪水：床上浸水11戸、床下浸水144戸、浸水農地面積95.5ha 昭和54年10月洪水：床上浸水189戸、床下浸水682戸、浸水農地面積356.9ha 平成2年9月洪水：床下浸水77戸、浸水農地面積3.8ha 平成10年10月洪水：床上浸水1戸、床下浸水75戸、浸水農地面積10.9ha 平成16年9月洪水：浸水戸数86戸 近年では、昭和48年6月、昭和53年7月、昭和57年6月、平成2年8月、平成6年7月に農作物に被害が発生している。 渇水実績： <ul style="list-style-type: none"> 昭和48年6月渇水：農作物に影響（県全体で7,089ha、約14億3千万円の被害）、簡易水道で給水制限 昭和53年7月渇水：農作物に影響（県全体で5,655ha、約34億9千万円の被害）、簡易水道で給水制限 昭和57年6月渇水：農作物に影響（県全体で1,148ha、約10億3千万円の被害） 平成2年8月渇水：農作物に影響（県全体で410ha、約3億6千万円の被害）、簡易水道で給水制限 平成6年7月渇水：農作物に影響（県全体で3,821ha、約23億円の被害）、簡易水道で給水制限 <p>〈達成すべき目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給、工業用水の供給、発電 (政策体系上の位置づけ) 政策目標： 政策目標： 								
便益の主な根拠	年平均浸水軽減戸数：75戸 年平均浸水軽減面積：6.6ha								
事業全体の投資効率性	基準年度	平成22年度							
	B:総便益(億円)	1,738	C:総費用(億円)	1,215	B/C	1.4	B-C	523	EIRR(%)
残事業の投資効率性	B:総便益(億円)	875	C:総費用(億円)	209	B/C	4.2			
感度分析	備考	感度分析		(事業全体)		(残事業)			
		資産(-10%~+10%)		1.4~1.5		3.8~4.5			
		建設費(-10%~+10%)		1.4~1.5		4.0~4.4			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 洪水調節：ダム地点の計画洪水流量400m³/sのうち250m³/sの洪水調節を行う。 流水の正常な機能の維持：下流の既得用水の補給等、流水の正常な機能の維持と増進を図る。 水道用水：鳥取市の水道用水として新たに1日最大20,000m³の取水を可能にする。 工業用水：鳥取県の工業用水として新たに1日最大30,000m³の取水を可能にする。 発電用水：殿ダムの建設に伴って新設される袋川発電所において、最大出力1,100kwの発電（鳥取県企業局）を行う。 								
社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> 浸水が想定される区域には、鳥取市や主要交通機関（JR山陰本線、因美線）、及び一般国道9号、国道53号等、人口資産が集積しており、流域の社会情勢には大きな変化はない。 鳥取県、鳥取市で構成する殿ダム事業推進協議会は事業推進を要望している。 水源地域整備計画に関する事業を実施中。進捗率71%（H22.9現在） 鳥取市水道事業は、各施設の拡充整備中。 鳥取地区工業用水道は、平成10年から暫定水利権による暫定取水を開始し、事業の拡張に合わせて順次増量申請を行っている。 袋川発電所建設事業は、平成21年から現地にて設備工事に着手しており、平成23年6月の完成に向けて現地施工を実施中。 								
事業の進捗状況	平成22年9月現在：進捗率85% 用地取得：99%、家屋移転：100% 本体工事：堤体盛立て及び洪水吐きの施工完了 付替道路：主要地方道鳥取国府岩美線は平成21年10月に全線供用。付替道路全体の進捗率は約97%								
事業の進捗の見込み	平成22年度末 試験湛水着手予定 工事は順調に進捗しており、基本計画どおり平成23年度事業完了予定								
コスト縮減や代替案立案等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> コスト縮減としては、新技術の活用として、取水塔の構造変更、付替道路の橋梁形式の変更等を行っている。計画見直しとして、巡視船等の運搬方式の見直し、ダム洪水吐きの掘削形状の見直し等を実施し、設計・施工の各段階で事業費の縮減に努めるとともに、殿ダム事業費等監視委員会を設置し、コスト縮減、工程に関し、第三者の意見を求めるなど事業監理の充実を図り、事業費をできるだけ抑えられるよう取り組んでいる。 代替案等の可能性としては、事業の進捗状況、費用対効果を鑑み、現状での立案の可能性はない。 								
対応方針	継続								
対応方針理由	事業の投資効果、事業の進捗状況、地元の協力体制、県の意見等を総合的に評価し、平成23年度のダム完成に向けて、事業継続が妥当								
その他	<p>(鳥取県の意見・内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 対応方針（原案）案については異存ありません。 (要望事項) <ul style="list-style-type: none"> 殿ダムは治水上の役割のほか、工業、水道、発電のための用水を供給する重要な施設であることから、当該事業が計画どおり平成23年度に完成し、効果を発揮するよう強く要望します。 事業の執行に際しては、できる限り経費の縮減を図られるようお願いいたします。 <p>(第三者委員会の意見・内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 再評価対象事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。 								

千代川水系図

